キリスト教布教に努めた

山崎為徳

山崎為徳は、キリスト教の教えを広く人々に伝えようとした神学者（宗教、特にキリスト教の教えなどを研究する人）である。

一八五七年（安政四年）三月三日、為徳は水沢の川原小路に生まれ、幼名を周作といいました。三歳の時に母親が病気でなくなり、その後は祖母によって育てられた。

為徳が九歳のころ、後藤新平、斎藤實らと共に留守家の学校である「立生館」で漢学（中国に関する学問）を学び、彼らの優れた才能は、後に「水沢の三秀才」と呼ばれるほどであった。

十一歳のころ、戊辰戦争（江戸幕府と維新を求める勢力との戦い）があり、父親が小銃部隊長（火縄銃の部隊長）のため少年鼓手（太鼓などをたたいて軍隊を進める役）となって、戦いに参加した。

十二歳の時に、その才能が認められ、胆沢県庁の役人の給仕（お世話・手伝いをする者）として採用されました。そこで、為徳の人生で最も大きな影響を与えることになる胆沢県庁役人野田豁通と出会あった。

一八七一年（明治四年）三月、野田は、為徳の将来を期待し、上京するときに一緒に自分についてくるよう誘い、東京に出ることとなった。その時偶然に、熊本県人である野々口為志が熊本に開校する洋学校（西洋の学問を教える学校）の教師になる予定のアメリカ人のレロイ・ランシング・ジェーンズを出迎えるために東京に来ていました。そこで、野田は、これからは蘭学（オランダ語により西洋の学問を研究すること）の時代ではないと考えていたので、為徳に洋学（英語等による西洋の学問）を学ばせようと熊本へ行かせることにした。

そこで、十五歳のとき、新しくできた熊本洋学校（現・熊本県立第一高等学校）に為徳は入学した。

この学校は、教師であるジェーンズの方針による特別な教育をする学校（イギリスの伝統的な紳士を育てるパブリックスクールとアメリカの軍人の指導者を育てる学校の生活を手本とし、教師と生徒が一緒に暮らして学ぶ学校）でありキリスト教の教えに基づいた教育を行っていた。

一八七五年（明治八年）七月、為徳は熊本洋学校の第一回生として最もよい成績を修めて卒業した。そして、再び東京に行き、九月

に東京開成学校（現在の東京大学）予科（本科に進む前の予備の課程）に飛び級（優秀なために普通の進み方より早い進学）により編入学（他の学校から移って入学する）しました。翌年九月からは本科に移り、為徳は理学部化学科に入って勉強に励んだ。

同年十一月に新島襄が京都に同志社英学校をつくると、熊本洋学校で学んだ多くの人たちが、そこに入学することを知りました。日ごろから東京大学の、知識を覚えることに重点をおいた教育のやり方や、一部の教師の宗教を否定し信じようとしない考え方などに不満であったのか、一八七七年（明治十年）、第一学期終了後の七月二十日ごろ為徳は学校に退学届けを出した。このとき、同じ水沢出身である斎藤實らが、東京大学で勉強をつづけるように説得をしたが、為徳の意志は固く、八月に退学が許可された。

その年の九月に、為徳は同志社英学校予課（バイブルクラス）に入学し、神学を学ぶかたわら、数学、科学、文学などを生徒たちに教えた。また、京都市内などでキリスト教についての講演会や演説会を開くなど、忙しい日々を送った。また、久しぶりに水沢に帰った時には、昔からの友人や町の人たちにもキリスト教を伝え指導した。

為徳は、一八七九年（明治十二年）六月に同志社英学校第一回生として卒業し、その後は、学校に残り教師として授業を行ったり、幹事として新島襄校長を助けたりした。特に、新島校長が不在のときには、代理を務めるなど、新島から厚い信頼を受けた。

一八八〇年（明治十三年）、「七一雑報」に「天地大原因論」を連載して、自分の神学論を発表するなど、大学の仕事とキリスト教を広める仕事にさらに集中して打ち込んでいった。

一八八一年（明治十四年）の春ごろから為徳の体調は、あまりよくない状態であったが、自分の体をいたわることはあまり関心がなく仕事を続けていたため、とうとう六月には結核の症状が表れきた。病気快復のため有馬温泉（兵庫県）で湯治をしたが病状は思うようにはよくならず、京都病院で診察を受けたところ肺結核との診断が下された。

新島は、教え子の病状が重いことを知り、自分も健康を害していたにもかかわらず、八月に為徳を自宅に呼び寄せ、静養させた。これは、新島の教え子を思う愛情の深さを示すものであった。新島夫妻や妹春野、水沢出身の片桐清治などから心のこもった看護を受けたにもかかわらず、一八八一年（明治十四年）十一月九日、為徳は二十四歳八ヶ月の生涯を閉じた。

翌日、京都教会（同志社教会）で新島の司祭により告別式が行

われ、

同志社の生徒、職員に送られました。墓地は、京都市左京区の哲学の道の南端から登る若王子同志社墓地にあり、郷里の水沢大林寺の山崎墓地には遺髪（亡くなった方の髪）がおさめられている。

水沢区川原小路の生家に接する山崎公園には、山崎の胸像と記念碑があります。記念碑には、「山崎先生は後藤新平、斎藤實と共に卿の三秀才、熊本洋学校、東京大学に転じて同志社に学び、教授となり新島襄の後継者と目され、真のキリスト教徒と謳わる」と記されてる。

山崎為徳胸像

＊参考文献

『生誕百五十周年　山崎為徳傳』　高橋　光夫

『歴史と観光　水沢浪漫』　水沢市　みずさわ観光協会

山崎為徳の生家（水沢市川原小路）